

平成 2 1 年度会津坂下町管理橋梁点検結果

1 . 点検実施橋梁

平成 2 1 年度に実施した橋梁点検（全 9 橋）の、橋種別等の集計を図 - 1 に示す。

- 橋長は 1 4 . 5 ～ 5 0 m が 4 割強、5 0 m 以上が 6 割弱となっている。
- 橋種は鋼橋 6 割弱、P C 橋が 2 割強、R C 橋が 2 割強となっている。
- 架設後経過年数は 0 ～ 1 9 年が 6 割弱、2 0 ～ 3 9 年が 2 割強、架設年月不明が 2 割強となっている。

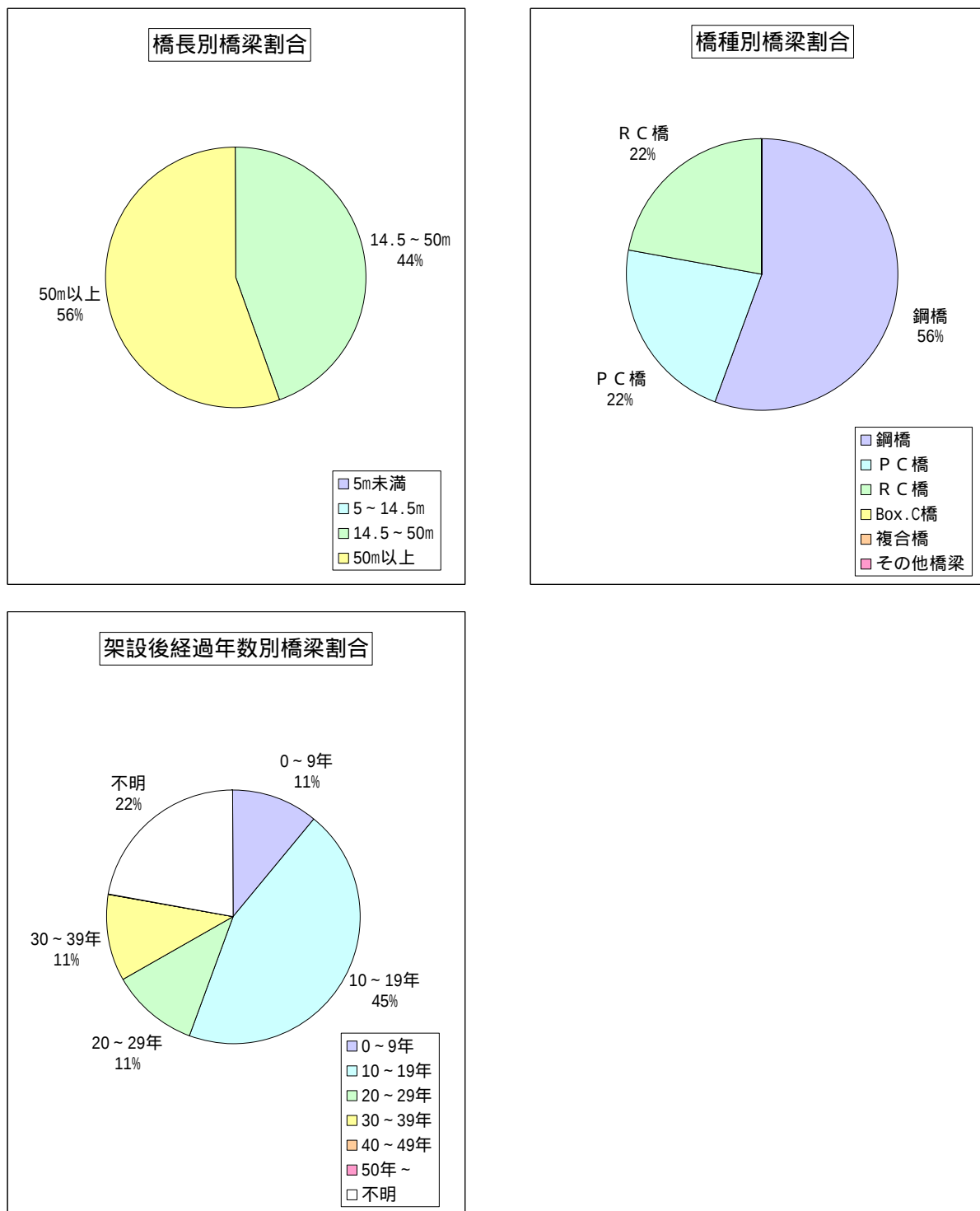


図 - 1 平成 2 1 年度橋梁点検の内訳

2. 損傷状況

平成21年度点検橋梁の損傷については以下の傾向が見られる。

- 橋梁主構造（上部工、下部工）の損傷が8割程度で見受けられる。
（全9橋、損傷橋梁7橋、割合78%）
- 路面の凹凸、舗装の異常及び高欄・防護柵の損傷が7割程度で見受けられる。
（全9橋、損傷橋梁6橋、割合67%）

（1）鋼橋

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあった橋梁は4橋あり、鋼橋全体（5橋）のうち、80%にあたる。

表 - 1 鋼橋の損傷内容

橋 種	部 材	損 傷	箇所数
鋼 橋	桁	腐 食	2
		亀 裂	0
		ボルト脱落	0
		破 断	0
	床 版	ひびわれ	4
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	3
		鉄筋露出	0
		変 状	0
	支 承	機能障害	0
	伸縮装置	損 傷	0
	損 傷 数		9
	実橋梁数		4
	点 検 数		5
	損 傷 率		80%

鋼製床版については、桁部材に含む。

（2）P C 橋

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあった橋梁は1橋あり、P C 橋全体（2橋）のうち、50%にあたる。

表 - 2 P C 橋の損傷内容

橋 種	部 材	損 傷	箇所数
P C 橋	桁	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		定着部異常	0
	床 版	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		変 状	0
	支 承	機能障害	0
	伸縮装置	損 傷	1
	損 傷 数		1
	実橋梁数		1
	点 検 数		2
	損 傷 率		50%

(3) R C 橋

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあった橋梁は2橋あり、
R C 橋全体 (2 橋) のうち、100%にあたる。

表 - 3 R C 橋の損傷内容

橋 種	部 材	損 傷	箇所数
R C 橋	桁	ひびわれ	2
		鉄筋露出	0
		定着部異常	
	床 版	ひびわれ	1
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	1
		鉄筋露出	0
		変 状	0
	支 承	機能障害	1
	伸縮装置	損 傷	1
	損 傷 数		6
	実橋梁数		2
	点 検 数		2
	損 傷 率		100%

(4) ボックスカルバート橋

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあったBox.C橋は0橋あり、
Box.C橋全体 (0 橋) のうち、0%にあたる。

表 - 4 ボックスカルバート橋の損傷内容

橋 種	部 材	損 傷	箇所数
Box.C橋	桁	ひびわれ	
		鉄筋露出	
		定着部異常	
	床 版	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		変 状	0
	支 承	機能障害	
	伸縮装置	損 傷	
	損 傷 数		0
	実橋梁数		0
	点 検 数		0
	損 傷 率		0%

(5) その他橋梁

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあった橋梁は0橋あり、
その他橋梁全体 (0橋) のうち、0%にあたる。

表 - 5 その他橋梁の損傷内容

橋 種	部 材	損 傷	箇所数
その他	桁・床版	腐 食	0
		亀 裂	0
		ボルト脱落	0
		破 断	0
		ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		変 状	0
	支 承	機能障害	0
	伸縮装置	損 傷	0
	損 傷 数		0
	実橋梁数		0
	点 検 数		0
	損 傷 率		0%

(6) 橋面

路面の凹凸、舗装の異常、高欄損傷のあった橋梁は6橋あり、
橋梁全体 (9橋) のうち、67%にあたる。

表 - 6 橋面の損傷内容

橋 種	部 材	損 傷	箇所数
全 橋	路 面	凹 凸	3
		舗装の異常	2
	高 欄	損 傷	5
	損 傷 数		10
	実橋梁数		6
	点 検 数		9
	損 傷 率		67%